【ニュージーランド短期語学留学】

ニュージーランドでの貴重な生活

長橋　愛海（東北公益文科大学公益学部３年）

この１ヶ月間、私が過ごした時間すべてがとても新鮮だった。

３週間行った語学留学では、毎日バスを乗り継いで大学へ通学し、英語で授業を受け、外に面するカフェテリアで昼食をとった。今までバス通学というものを経験したことがない私にとっては、最初は不安しかなかったものの、慣れていくうちに他の学生と話したり、外の景色を楽しんだりと、私なりに楽しむことができた。授業においては、韓国、フランス、チリなど、他の国からの留学生もたくさん参加しており、英語はもちろん、他の国の文化も少し知ることができた。先生方もとてもフレンドリーで、とても和やかな雰囲気で授業を受けることができ、とても楽しかった。毎週火曜日には日本語授業の先生のアシスタントとして、現地の学生と日本語で話し、新しい友達の輪を広げることができた。また、改めて日本語の難しさを実感した良い機会にもなった。大学が終わればほぼ毎日、公益大や他の大学の仲間と一緒に街に繰り出して遊んでいた。ニュージーランドは就業時間が短く、夜の６時には店がほとんど閉まってしまうという状態だったため、あまり長居はできなかったが、十分に楽しむことができた。

週末には大学のアクティビティとして、海や洞窟、乗馬などに行き、ニュージーランドの自然を心ゆくまで堪能することができた。休日には公益大のメンバーで高速バスに乗ってオークランドに行き、観光もした。

私の留学生活を支えてくれたホストファミリーは全員がとてもフレンドリーでアクティブな人たちだった。ホストファザーとホストマザー、その娘と息子の４人家族なのだが、他にも、同じ大学に留学している中国人の女性とチリ人の女性がホームステイしており、最初は緊張したが、２人もとてもフレンドリーで、夕飯にはみんなでそれぞれの故郷について歓談した。途中からアメリカ人の女性もホームステイしており、彼女もとてもいい人だった。休日には、観光に連れて行ってくれ、他にも協会やローラースケート、バスケットボールなどにも連れて行ってくれた。私は、とにかくホストファミリーとコミュニケーションをとりたい、仲良くなりたいと考えていたため、できるだけホストファミリーと一緒に過ごすことを心がけ、つたない英語ではあったが一生懸命自分の思いを伝えていた。

日本にいた頃は、言わなくてもわかるだろうと、自分の思いを伝えることに一生懸命にはなっていなかった。しかし、この語学留学を通して、考えや意思は口にしなければ伝わらないのだということを学び、その大切さを痛感した。

３週間の大学課程を終えた後、私は１週間、幼稚園でインターシップを行った。主な仕事内容は先生の補助だった。子供たちへの昼食を出す手伝いや、おもちゃの片付け、簡単な清掃を行い、もちろん、子供たちと一緒に遊んだりもした。私は年長組を担当し、日本語が通じる人が誰一人いないということもありとても緊張していたが、先生方や子供たちが温かく私を迎え入れてくれたおかげで気負わずに研修に取り組むことができた。

インターンシップ先で過ごしたホームステイもとても充実したものであった。１週間という短い期間ではあったが、ホストファミリーも私に積極的に温かく接してくれたため、不安になることなく毎日楽しく過ごすことができた。ホストファミリーはホストファザーとホストマザーの２人だけだったが、とても明るくフレンドリーな夫婦だったため、寂しさなど微塵も感じなかった。私が充実したインターンシップを行うことができたのも、ホストファミリーが私を支えてくれたからだ。

インターンシップで学んだことは、ニュージーランドの法律の厳しさや、その土地の自然に適したケアを行うということである。ニュージーランドは個人情報に関する法律が厳しく、先生でさえも、子供たちの写真を撮影するときには保護者の同意書が必要なのだそうだ。また、ニュージーランドは日差しが強く紫外線も多いため、外で遊ぶときにはその都度、子供たちに日焼け止めを念入りに塗っていた。子供たちの体を考慮し、自然に適したケアを行う姿勢にとても感銘を受けた。

語学留学やインターンシップで共通に感じたことは、現地の人々がとにかく温かい人たちであったということである。だからこそ、不安、不満を何一つ感じることなく過ごすことができたのだろう。私はこの短期語学留学プログラムに参加することができて本当によかったと思っている。